

(第2会場：4F視聴覚室)

■司会 山平 敏夫〈熊本県〉 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事  
新納 雅樹〈鹿児島県〉 鹿児島県教育庁社会教育課 指導主事

5.19

## 1. 生涯学習グループ「やまぐちネットワークエコー」の構築による女性の社会参加促進のプロセスと成果 10:45~11:10

西山香代子〈山口県〉 やまぐちネットワークエコー事務局

活動の拠点は山口県生涯学習センター、出発点は平成元年、「やまぐち女性カレッジ」の修了生が学習と交流を目指して結成した「やまぐち女性の交流会」である。平成5年に全县にネットワークを拡大するため「レディースエコー」として会を結成、さらに男性の入会により「やまぐちネットワークエコー」と改称。目的は男女共同参画。企画実行委員、実行委員を募集して「生涯学習ネットワーク研究会」を実施。朗読劇、ファシリテーター養成講座、アサーティブトレーニング等学習方法も多様である。今後は、県内の目的を同じくする団体や行政、学校とも連携して響きあう共生のネットワークを展開したい。

## 2. 市民による市民のための生涯学習プログラム「おなかた市民学習ネットワーク事業」 11:10~11:35

赤岩喜代子〈福岡県〉 市民学習ネットワーク事業運営委員会 会長

宗像市で活動が活発に展開されている市民学習ネットワーク事業とは、推薦制のボランティアの指導者による生涯学習システムである。市民が身近かな場所で、自主的かつ相互に学習できるよう、指導者の発掘、養成、指導者と学習者の仲介、情報提供などを行なっている。発足は昭和59年。領域は「趣味・稽古ごと」、「家庭生活」、「スポーツ・レクリエーション」、「教養」、「伝承文化」の5分野である。行政はサポートに徹し、運営はボランティアの委員に一任。学習に限定せず、研修、交流、発表、各種事業への参加・協力などを組み合わせたことが活動継続の主たる要因である。

## 3. 公民館着付講座の社会還元の方法と思想 11:35~12:00 —「おびの会」ボランティア活動23年の軌跡—

久保田照子〈沖縄県〉 おびの会 会長

「おびの会」の会則には、「沖縄の歴史、文化を学び、それを次代に継承し、ボランティア活動を通して、交流の輪を広げ、地域社会に奉仕する」という複数の目的が列挙されている。「着付け教室」は活動の出発点であり、そこから「学習会」、各種大会の支援を目的としたボランティア活動、「首里城の復元」に関する様々な活動、老人クラブとの交流、着物ショーや「エイサ」を活用した国際交流など実に幅広い実践を積み重ねてきた。着物の着付け学習という「目的集団」を、単一目的のためだけの閉鎖集団に終らせず、異業種活動との連携・交流、社会貢献活動への直接参加に発展させた希有な事例の一つである。

## 4. 総括討論 12:00~12:30